

シニアネットワーク連絡会セッション

夢に挑戦する人材育成

Fostering human resources with challenging spirit to Dreams

(4) 若者にとっての夢と課題

(4) Dreams and Issues for young generation

*三島 理愛

東京工業大学大学院 環境・社会理工学院 融合理工学系 原子核工学コース

2011 年から 8 年間原子力分野の学生を続け、また学生連絡会員として他大学の学生と交流し得た私見では、学生が原子力分野の学科、専攻に進学する要因は大きく分けて 4 つあると思われる。①福島第一原子力発電所事故(1F 事故)、②希望する研究内容の合致、③原子力が身近であること、④単純な好奇心である。

①1F 事故：当時 1F 事故に関して新聞やニュースで取り上げられるようになったことから原子力や放射線存在を知り、除染、廃炉の必要性を感じ使命感を抱く。事故前は福島県に住んでおり故郷の復興を望んで原子力分野に進学した学生もいる。今の学生はほぼ全員が 1F 事故後に大学または大学院進学をしていることもあり、体感として最も多い理由である。

②希望する研究内容の合致：学部では化学科、物理学科、電気電子工学科などに所属していた学生が、大学院進学にあたり希望する研究室が偶然原子力分野の専攻だった場合である。一概には言えないが、就職先は原子力関係に進まない学生が多い。

③原子力が身近であること：実家の近くに原子力関連施設がある、または親が原子力関係の仕事をしている等により、幼少時から身近に原子力があることが当たり前で自身も抵抗感なく原子力分野に進学、就職する。

④単純な好奇心：医療、ゲーム、学校の授業など 1F 事故とは全く関係ないきっかけで原子力に興味を持ち進路に決める場合であり、近年では珍しい。

いずれの要因で原子力分野に進学した学生でも、原子力関係に就職を希望する際には、1F 事故関連、日本のエネルギー戦略、原子力ひいては人類の発展等、何かしら使命感を持って臨んでいる。

*Ria Mishima

Tokyo Institute of Technology.